

丑  
二  
編  
聯  
報

丑

E-2078

0031

歐米局  
普通公第二四號

昭和八年二月六日

在武市

領事代理 豊原幸夫



外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

ブレイヤ河ニ於ケル水力電気計畫ニ  
關スル主任技師ノナシタル調査報告  
ノ件

豫テ「ブレイヤ」河（「アムール」河ノ支流）ニ於テ「ナゴ  
ルヌイ」技師指導ノ下ニ水力電気計畫調査行ハレ居タル趣ナル

E 4.5.0. 21

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

昭和八年二月廿七日

處客月七日右調査事務ハ一段落ヲ告ケタル由ニテ本調査ニ關シ  
調査班長「ナゴールヌイ」技師カ「ドリロスタ」通信社記者ニ  
報セル處大要左ノ如シ

本調査ハ「アムール」流域ニ於テ計畫セラレ居ル工業的企業  
第一ニ有力ナル冶金工場ニ供給スル爲必要ナル水力根源地ヲ發  
見スル目的ニ出テタルモノニシテ本調査隊ハ非常ニ困難ナル條  
件ニ於テ作業セサル可カラサリシカ濼瀾タル青年勞働者等ノ盡  
力ニ依リ大ナル資料ヲ蒐集スルヲ得テ大略五〇〇「キロメー  
トル」ニ亘ル地域ノ調査ヲ遂行スルヲ得タリ其結果「ブレイヤ」  
流域ニ於テハ水力電気建設上全ク好條件アルコト判明セリ又水  
力電気發電所ノ堤防設備ヲナスタメ有利ナル次ノ五ヶ所ヲ指摘

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

ス即チ「ラルダカンスカヤ」「タラカンスカヤ」「ウスチ・テ  
ズミンスカヤ」「ウシユミンスカヤ」ナリ  
「ブレイヤ」川利用計畫ニ關スル問題ハ諸資料ノ整理ヲ完結シ  
タル後最終的解決ヲナシ得ヘキモ現在ハ適當ナル水溜ニ於テ水  
力發電所ノ爲三防ノ設備ニ限り之ヲ成シ能フヘキコトノミハ思  
ハレ得ヘシ而シテ此等發電所ノ總能力ハ十五萬馬力ト豫見セラ  
ルスノ如キ頗ル有力ナル「エネルギー」根據地ニ於テハ大冶金  
工場ノミナラス其他ノ多數工業的企業ヲ計畫シ得ヘシ特ニ挽材  
工場ヲ建築シ木材化學企業其他ヲ起スヲ得ヘシ此外「ブレイヤ  
」水力發電所ハ「キウジンスキー」石炭坑竝ニ最近發見セラレ  
タル採金地ニ對シテモ「エネルギー」ヲ供給シ與フ可シ最近月

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

内ニ「ブレイヤ」利用計畫カ検討セラルルニ從ヒ豫見セラレタ  
ル水力電氣設備ノ能力及電力ノ「キロワット」時（一時間）「キ  
ロワット」ノ仕事ヲナス電力」ノ價值ハ詳細判明スルコトヲ得  
ルニ至ル可シ云々

（一月廿六日發行「アムールマガヤ」ブラ  
ダ」所載）

右何等御參考迄報告申進ス

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

歐亞局  
公第一四四號

昭和九年十一月二十三日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

當市配電狀況ニ關スル件

當市發電所ハ本年初夏以來毎日午前八時頃ヨリ日没迄殆ント總テノ住宅ニハ配電ヲナサス日没後辛シテ「ボルト」不充分ナル電力ヲ送付シ居レリ

日中送電ヲ受クルハ一般公衆ト關係多キ施設一例セハ(一)市内外電車及街燈(二)各種工場、冷蔵庫(三)劇場、停車場、料理店、「カフェー」

在オデッサ日本領事館



昭和九年十二月八日

Handwritten notes and signatures on the right margin.

E.P. 5.0.59

大商店(四)新聞社(五)港内諸建築物、税關、埠頭(六)圖書館(七)病院、「サナトリウム」等ニ過キス

當館所在地域一帯ハ市内目抜ノ場所ナルヲ以テ日中ノ停電ニ比シ夜間ノ停電今日迄ノ處比較的少ナシ其以外ノ地域ニ在リテハ日没後十時頃迄僅カニ數字間配電ヲ受クルノミニテ其後午前一時頃迄ハ殆ント配電ヲ受ケス午前一時後日出迄ハ配電アル由ナルモ就寢時間ナルヲ以テ之ヲ利用スル者少ナシ

勞働者住宅區域ハ夜間比較的停電少ナキ由ナリ  
右停電ノ表面的理由トシテハ燃料節約ト稱シ居ルモ巷間傳ヘラル、處ニ依レハ石炭ノ不足、舊式發電機ノ缺陷、専門技師ノ智識不足並ニ勞働者ノ怠慢等ニ依ルトノコトナリ

在オデッサ日本領事館



停電頻發スルモ「ランプ」用石油又ハ蠟燭等ヲ容易ニ購入シ得ハ幾分不便ヲ除去シ得ルモ一般人民ハ石油不足ノ爲メ購入殆ント不可能ニシテ蠟燭ハ「トルグシン」ニテ販賣セラル、モ買フニ外貨ナク偶「バザール」ニ於テ販賣セラル、モ投機師ノ手ヲ經ルコト、テ價格法外ニ高ク之亦容易ニ入手シ得サル次第ナリ

尙個人住宅ハ一室ニ付最大光力廿五燭光一個トシ其以上ノ電球使用ヲ制限シ且家庭ニ於テ熱、動力、治療用トシテノ電力使用ヲ嚴禁ス過去數ヶ月間當市ノ配電狀況ヲ見ルニ漸次惡化ニ傾キツ、アル如ク認めラル

右報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

手紙  
13

歐亞局

公第本三號

昭和十年三月十五日

在武市

領事代理 下村 未 郎



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

「アングラ・スツロイ」ノ調査作業

進捗状況ニ關スル件

客年七月二十七日附公第一〇九號拙信報告「アングラ・スツロイ」ノ調査計畫案ニ關聯シ「アングラ・スツロイ」ノ調査作業進捗状況

在ブラゴウエスチエンスク領事館

昭和拾年參月廿六日接受

何等御參考迄左記ノ通譯報ス（二月二十七日附「ウエ・シピリスカヤ・ブラウダ」紙所載）

記

「アングラ・スツロイ」ノ調査作業進捗状況

「アングラ」水力電氣建設綜合調査班次長「バグダーノフ」技師ノ談話要領左ノ通

一九三〇年迄吾人ハ「アングラ」河ニ關シ何等知ル所無カリキ「アングラ」河及其支流タル貝加爾、「セレンガ」兩河ノ水域綜合調査ハ實ニ一九三〇年ニ着手セラレタリ

今ヤ水域調査作業ハ大体完了シ「アングラ」河ニハ三ヶ所「イルクト」、「キトヤ」、「ウダ」、「セレンガ」ニ各々一ヶ所常設ノ水

在ブラゴウエスチエンスク領事館



測所アリ二三ヶ所ノ水測派遣所、九六ヶ所ノ水測分駐所ト共ニ尙水域調査中ナルガ調査ノ結果「イルクーツク」ヨリ四軒ノ「ベ・ラズウオドナヤ」村ニ五十二萬五千「キロワット」ノ貝加爾發電所建設ノ可能ナル事判明セリ依テ第二次五箇年計畫ノ末尾或ハ第三次五箇年計畫ノ初頭ニハ建設着手ノ運ニ至ラン

目下調査作業ハ最盛期ニ在ル處一九三五年ノ初頭迄ニ八百萬留支出セラレタリト云フ事實ニ付見ルモ其旺盛振ハ窺知スルニ足ルヘク尙茲數年間ニ一千五百萬留支出セラルル豫定ナリト云フ  
「ソヴィエト」政府ハ勤勞階級ノ物質的、文化的生活條件改善ノ爲ニハ假令數十億留ヲ投スルトモ之ニ吝カナラサルモノナリ建設完成ノ曉ハ「バドウン」發電所一ヶ所ニテモ毎時百七十七億「キロワツ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

ト」ノ電力ヲ供給スルニ至ルヘク之現時蘇聯邦電力消費量ノ四倍ニ相當ス

三月初旬ニハ東部西伯利亞及極東綜合調査管理部首席技師「マルイシエフ」教授モ「イルクーツク」ニ到着スル筈ナリ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

電報

事務 E4.5.0.59

文書課長

文書課發送

昭和拾年四月八日

淨書

正校(原稿)

淨書

別紙

主 管 歐米局長

主 任 第一課

昭和十年三月二十九日起草

歐一普通密第一四三二號

昭 和 拾 年 四 月 六 日

日 附 附 屬

受 陸軍省永田軍務局長

信 參謀本部岡和彦二部長

名 逓信省清水電氣局長

信 發 東郷 欧西局長

記 録 名 件 〆  
本件ニ關シ今般在 試 市 下 〆  
ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ  
付爲御參考右茲ニ送付ス

件 名 〆  
アングラ、スワロイ、調査作業ニ關スル件

本件ニ關シ今般在 試 市 下 〆  
ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ  
付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先

陸軍省

参謀本部

逓信省

公 信 案

(昭和十年三月十九日附在 試 市 館 來 (在) 普 機 龍 第 七 〇 二 號 寫 並 附 屬 書 寫)

外 務 省

6 26

E-2078





電報

E4.5.0.59

文書課長	文書課發送	昭和拾年四月八日	發送済
	主 管 歐米局長	主 任 第一課	昭和十年三月二十九日起草
主 管 歐米局長	第一普通密 第一四三二號	昭 和 拾 年 四 月 六 日	日 附 附 屬
受 信 陸軍省永田軍務局長	陸軍省 參謀本部岡村軍二部長	逕 依 省 該 水 電 氣 局 長	政 西 局 長
件 名	アングラ、スワロイ、調査作業ニ関スル件	本件ニ關シ今般在 武 市 下 知 照 仰 也。ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ 付爲御參考右茲ニ送付ス	本信照會集押込先 門 類 項 目 號 左 4 1 0 H 號
公 信 案	本信送付先 陸軍省 參謀本部 逕 依 省	(昭和十年三月十九日附在 武 市 館 來 往) 電 機 第 七 乙 號 寫 並 附 屬 書 寫)	外 務 省

別紙

6 26

E-2078

0039

昭和十年五月二十七日

在ノヴォシビルスク

領事 小柳雪生



外務大臣 廣田弘毅殿

「アングラストロイ」ノ豫備的調査ノ結果  
ニ關スル新聞記事譯報ノ件

尨大ナル「アングラストロイ」ノ豫備的準備調査研究ハ各方面ニワ  
タリ騰ク行ハレ居リタル所最近此種ノ調査モ大体終了シタルモノ  
ノ如ク本月二十一日「イルクーツク」市發刊ノ「ヴァアストーチノシ

ビルスカヤプラウダ」紙ハ「アングラストロイ」ノ新統計ト題シ左  
記ノ如ク報ジ居リ數年ニワタリ行ハレタル調査研究ノ結果ハ満足  
スベキモノニシテ企業採算上ノ見込充分アリト論結ヲ下シ居ルニ付  
右御參考迄譯報ス。

記

「アングラ」水力發電計畫局ハ前年中「アングラ」ニ付行ハレタ  
ル大規模ノ探索、學術調査ノ統計ニ本年ハ最モ注意ヲ拂ツテ居ル  
ガ、「アングラ」局ノ聲明スル所ニ依レバ既ニ統計上ノ論據ハ安價  
ナル「アングラ」水力電力ヲ基礎ニ強大ナ工業的合成ノ創設可能ヲ  
雄辯辯ニ證明シテ居ル。

次ニ鐵礦産地ノ工業的意義ヲ定メルニ至ツタ則チ既ニ所定鐵礦産  
地ノ埋藏量ハ約五億噸ニ達シ而モ其質ハ高度ナルコトガ判明シテ居  
ル。

「アングラ」ニ關スル第一階程統計資料ノ結果判明シタ他ノ重要  
ナルコトハ將來ノ「アングラ」冶金綜合企業ヲ遠隔ナ「トング」スキ  
「」ニ非ズ近キ「チェレムホーフ」炭田地ニ基礎ヲ置クコトガ充分



可能デアルトコトガ判明シタコトデアル。「チエレムホーフ」炭ハ試験ノ結果ソレヨリ得タ半「コルクス」炭ト混合スルニ於テハ良ク「コルクス」化スルトヲ示シタ。

水力発電所ニ付新ニ重要ナ證據ヲ得タガ右ハ「バイカル」水力発電所ノ水門、堤防ニ關スル地スベリノ懸念ハ誇張セラレタモノデアルトコトガ判明シタコトデアル。地スベリハ深キ地中ニハ及ンデ居ラヌコトガ判明シタ、依テ「イルクーツク」附近ニ計畫セラレタ水門、及堤防ニ關シ本年地質的及調査的作業ノ續行ヲ許スコトニナル。

總ジテ現今「アングラ」局ノ所有スル資料ハ草案主要セズ、「バイカル」水力発電所ノ技術的計畫課題編成ニ際シ總ユル技術的並經濟的前提ヲ供給シテ居ル。

発電所ノ經濟的能率ハ非常ニ高ク電力「キロワット」ノ實費ハ多分〇、四「カベク」ニ當ルベク右ハ一切ノ電力工業（「アルミニウム」工業其他）ノ電力供給地ニ於ケル有利ヲ保證スルモノデアル。

調査ニ依リ頗ル大ナル石灰産地「ザイグラエフスコエ」<sup>①</sup>發見セラレタガ右ハ「カーバイト」煨燒製造地トナルベク、從ツテ合成ゴム工業組織ノ地トモナルコトヲ得ルノデアル。

斯ノ如ク安價ナル「アングラ」水力電力ニ基礎ヲ置ク將來ノ尠大ナル工業合成ノ外貌ハ益益ハツキリトエガキ出サレテ居ル次第デアル。

以上

BII

BII

(分類 三ノ.五.〇. 八九)

(票 合 照)

件 名 「エダシタ」の録音及びその複製

受信者 福年谷田年谷田長

昭和十年六月一日

第 二 五 三 五 号

記録件名

発信者 田中久

原書ハ E. 五. 〇. 八九 手紙 複製 付

ニ在リ

郵

頭E 4150.59

公文書課發送 昭和拾年六月廿四日發送 清書	主 任 第一課 歐米局長	主 任 第一課 歐一機通 第一六一一號	日附 附屬	昭 和 年 月	正校 (原稿)
				昭 和 年 月	別紙
受 信 人 名		陸軍省 永田軍務局長		東 郷 局 長	
件 名		フアニカラストロイノ豫備的調査ノ結果		東 郷 局 長	
付爲御参考右茲ニ送付ス		本件ニ關シ今般在ノ切オシヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ		本信送付先	
公 信 案		(昭和十年 六月二十七日附在ノ切オ館來(往)機第 七七 號寫並附屬書寫)		外 務 省	

21 102 記

E-2078

0043

歐亞局

普通第九七號

昭和十年七月十五日

在ノヴォシビルスク

領事 小柳壽生



外務大臣 廣田弘毅殿

「ノヴォシビルスク」市ノ電力ニ關シ報告ノ件

比較的短期間ニ工業並行政ノ中心地ト化シタル「ノヴォシビルスク」市ハ現在約三十五萬ノ人口ヲ有シ、市街ノ建物、諸般ノ施備モ漸ク西部西伯利ノ中心地ラシク整備シ初メ、市電ノ開通、諸企業ノ發展（當市ニ於ケル主要工場ハ鑛山用機械製造工場、産金用機械製造工場、石

課

類E.S.O.59

織製造工場、皮革工場、製靴工場等）ハ市内ノ燈火電燈數ノ増加ト相マツテ電力需要ノ激増ヲ齎スニ至レリ。

「ノヴォシビルスク」市ニ於ケル燈火用電力並電動力ノ根據地タル發電所ハ「オビ」河右岸ノ橋畔ニアリ、之ハ一九二六年ニ操業開始ヲ見タルモノニシテ、當時五百「キロワット」ノ「タイボゼネレーター」ニナリシガ、現在ハ發電所能力一萬一千五百「キロワット」トナレリ。

當市ニ於ケル最近數年間ノ電力生産高並右消費量ヲ示セバ左ノ如シ。

年度	電力生産高	消費量（共ニ單位百萬「キロワット時」）
一九二九年	八、八	六、八
一九三〇年	一四、〇	一一、一
一九三一年	二一、六	一七、四
一九三二年	二八、〇	二一、八
一九三三年	三八、四	二九、三
一九三四年	四八、二	三七、五

BII

昭和十年八月廿一日

電力消費量ノ比重關係ノ變化ヲ示セバ

年	單位百萬キロワット時比	率
一九三〇年	燈火(工業用燈火ヲ除ク)	五、〇
	工業用	四、二
	其他(水道運輸農業等)	一、九
計		一一、一
一九三四年	燈火(工業用燈火ヲ除ク)	一一、七
	工業	一九、九
	其他(水道運輸農業等)	五、九
計		三七、五

右表ノ示ス如ク、一九三〇年ト一九三四年トノ間ニハ燈火用電力ト工業用電力トノ間ニハ全ク其ノ位置ヲ變ジ、工業用電力ハ其ノ比率ヲ増大シ、又工業用電力中ニ於テモ重工業、特ニ金屬品ノ仕上工場、機械製作及建築材料工業ニ使用セラル、電力ノ比重ハ益益

増大ノ一途ヲタドル傾向ニアリ。工業用部門内ニ於ケル使用比率ヲ示セバ左ノ如シ。

工業内部門別使用電力比率(但シAハ發電機、Bハ其他)

グループ	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
「グループ」A	一八、四	二一、九	三一、五	四〇、六
「グループ」B	四四、〇	四三、四	三二、一	三一、三
多種小企業	三七、六	三四、七	三六、四	二八、一
計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

發電能力及電動力生産ノ増大顯著ナルニモ不拘、「ノヴォシビルスク」市ノ歴大ナル經濟的文化的發展ハ電氣業ノ發展ニ先行シ、從ツテ露現  
在當市ノ需要力ハ一萬六千一萬七千「キロワット」時ナルニ對シ「  
オビ」右岸ノ發電所能力ハ一萬一千五百「キロワット」時ニシテ然モ  
發電所ハ「ボイラー」ノ豫備ヲ有セズ、器具ノ修理、障害ノ發生、  
或ハ計畫竝組立上ニ所應セル諸缺陷ニ基因シ事實ニ於テハ八千五百乃至  
九千「キロワット」時ヲ保證シ得ルニ過ギズ。



固ヨリ一九三二年三三年ニ於ケルガ如ク百觸光（當市ノ「ボルター  
ジ」ハ二百二十及百十ノニアリ）ヲ使用スルモ猶薄暗ク讀書ニ困難  
ヲ感ジ或ハ光ガチラツキ又 主要道路ニ街燈スラ燈火サレザリシ時代  
ニ比スレバ遂年其發展ノ跡顯著ニシテ、今日ニ於テハ主要街路ハ燈  
ト輝キ「シヨウインド」ニ光彩ヲ添ヘ居ルモ未ダニ一度足ヲ市ノ中心  
ヨリ外ニスレバ短夜ノ夏期ニ於テスラ定期的ニ消燈シ電力ノ節減ヲ行  
ヒ居ル状態ニアリ。

此ノ電力ノ不足ニ對シ當局トシテモ兼テ「オビ」河左岸ニ新發電所ノ  
設置計畫ヲ建テ工事ヲ進メ居タル所、最近ニ至リ漸ク工事モ進捗シ、  
本月十四日當地機關紙「ソヴイェトスカヤシビリ」紙ノ報道スル所ニ  
依レバ建設方面ハ殆ンド完成シ、目下發電所ノ「モンタッシュ」ヲ行ヒ  
居ルモ、ソレモ主要ナル部分ハ既ニ終了シ十月末乃至十一月初旬ニハ  
操業開始ノ運ビニ至ルベシト。  
然シテ右火力發電所ノ能力ハ之ガ完成ノ曉ニハ十萬「キロワット」、  
第一段階ニ於テハ五萬「キロワット」、操業開始期ニハ二萬四千「ワ  
ット」

ロワット」ナル趣ニシテ斯クテ「ノヴォシビルスク」市ノ電力需要ハ  
保證セララルニ至ルベシ。

猶「オビ」河左岸ハ發電所ノ設置ニ伴ヒ右從業勞働者ノ爲五階建三室  
一戸造ノ八十八戸ヲ有スル建物ヲ造リ、公園「クラブ」ヲ設クル等  
文化施設ヲ行ヒ居リ、舊來ノ「シブメタルストロイ」等ト相マツテ  
「ノヴォシビルスク」市新工場地區トシテ今後益益發展スルモノト  
思考セララル。

右何等御參考迄報告申進ズ。



副三

E 4.5.0.59

普通公第 〇四號

昭和十一年五月二十三日

在武市

領事代理 下村未郎



外務大臣 有田八郎殿

「アンガラ、スツロイ」案ニ關スル件

「アンガラ、スツロイ」ノ調査作業進捗状況ニ關シテ、客年三月十五日附普通公第六三號ヲ以テ報告シ置タルカ本年五月十六日附「ウエ、シビルスカヤ、ブラウダ」紙ハ「アンガラ、スツロイ」ハ既ニ案ノ作成ヲ了シ國家計畫委員會ノ協贊ヲ得タル趣

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

Handwritten signature and date: 昭和十一年六月一日

報道シ居レリ

同記事何等御参考迄左記ノ通摘譯報告ス

記

「アンガラ、スツロイ」ハ國家計畫委員會ニ於テ同委員會、重工業人民委員部及學士院委員參加ノ下ニ本年四月十五日案ノ査定ヲ終了セリ

査定ノ結果ハ頗ル良好ニシテ「アンガラ」建設局ノ主要提議ハ何レモ殆ント滿場一致ヲ以テ委員ノ協贊ヲ得タリ

「アンガラ」建設局ノ主要提議ハ第三次及第四次五箇年計畫中「沿貝加爾」(「イルク」ツク)、「ウソ」リエ)、「チエレム

「ホウオ」)地帯ニ水力及火力發電所ヲ建設シ其ノ電力ヲ動力トシ聯邦的意義ヲ有スル「大工業中心地」ヲ建設スルニ在リ即チ「貝加爾」水力發電所、建設地「イルク」ツク、市ノ上流八軒ノ「アンガラ」

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

河畔「ボリシエラズウエーデンスキー」  
 発電能力「六〇萬」キロワット「ノ三八億」キロワット  
 建設費「八億乃至八億五千萬」  
 建設期間「一九三八年」ヨリ建設ニ著手「五ケ年間」完成  
 二、火力発電所  
 (一)「チエムホウオ」火力発電所第一號  
 建設地「下」チエムホウオ「廣場」  
 発電能力「一五萬」キロワット  
 (二)「チエムホウオ」火力発電所第二號  
 建設地「上」チエムホウオ「廣場」  
 発電能力「八萬二千」キロワット  
 (三)「イルク」火力発電所  
 建設地「下」チエムホウオ  
 発電能力「四萬」キロワット

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

以上何レモ貝加爾水力発電所ト同時ニ操業開始  
 三、工業及企業  
 (一)「アンガラ、イリムスゴ」  
 「ゴルシヌノフスコエ」鐵鑛産地及「ルーツナヤ、ガ  
 ラ」ノ開發  
 (二)「曹達工場」  
 建設地「下」チエムホウオ  
 製造能力「一五萬五千噸」  
 (三)「セメント」工場  
 建設地「下」チエムホウオ  
 (四)「硫酸工場」  
 建設地「下」チエムホウオ

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

(四) 有色冶金工場の建設地  
 建設地「アムホウオ」  
 (五) 燃料工場建設地「チェムホウオ」  
 (六) 製造能力「○萬噸」  
 (七) 黑色冶金工場「アンガラ、イリムスコエ」「クラスノヤルスコエ」「コルンヌノフスコエ」鐵鑛産地及「ル」  
 以上何レも第三次五箇年計畫申請完成  
 四、都市  
 (一) 「イルクーツク」市ヲ人口五〇萬ノ大都市ニ擴大並ニ諸工場、港灣、倉庫、造船所、鐵橋及貨物専門ノ第二

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

(二) 擴大「イルクーツク」市人口三六萬ノ一大工場都市ニ  
 (三) 「イルクーツク」「チェムホウオ」兩市間ニ多數労働者村ノ創設  
 因「アンガラ」「スツロ」總建設費ハ二五億留ト稱セラル  
 在蘇滿谷大使  
 在哈府浦沙各總領事  
 在「ノウオ」領事

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

歐亞局

機密公第一九四號

昭和十一年九月二十八日

在武市

領事代理 下村 未 郎

外務大臣 有 田 八 郎 殿

極東地方ノ電力統計及新建設發電所ニ關スル件

哈爾濱鐵路局北滿經濟調査所編纂ニ係ル本件資料中ヨリ拔萃セル左

記事項何等御參考迄報告ス

本信寫送附先 在哈府浦鹽各總領事

記

一、一九三三年一三五年電力統計

一九三三年 發電量九千二百七十萬キロワット時

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

第一號

Handwritten signature and date: 昭和十一年拾月六日

一九三四年 發電量一億三千萬キロワット時

出 力 五 萬 四 千 七 百 七 十 瓦 特

右ノ内浦鹽發電所一萬三千三百キロワット、哈

府發電所四千二百キロワットニ擴張

一九三五年末 豫定出力十一萬キロワット

右ノ内三千キロワットヨリ六千キロワットニ擴

張スルモノ

ブラゴウエシチエンスク發電所

スワボドヌイ發電所

ニコラエフスク發電所

アレクサンドロフスク發電所

ピロビジャン發電所

ウオロシーロフ發電所

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館



ボチカリヨロウオ発電所
スコウオジノ発電所
九千キロワットニ擴張スルモノ
スバスク発電所
二、新建設発電所（一九三六年度）
(一) アルチヨム国立地方火力発電所（豫定出力十萬キロワット）
(二) コムソモリスク工業発電所（豫定出力六千キロワット）
アルチヨム発電所パウスリスキ一灣ノマイトウン入江ヨリ一八
杆ヲ去ル地點ニ位シトバズ湖ニ臨ミ、マイヘ河トバタリヤンザ
川トノ中間ニ在ル。建設工事ニ着手シタノハ一九三二年テアル
カ豫定カ狂ヒ本年十一月七日ニハ全能力十萬キロワットノ内二
萬五千キロワットノ能力ヲ有スルタービン一基ノミカ、運轉ヲ
開始スルコトニナツテキル。既ニ建設ヲ終ヘタ主要建設物ハ高

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

サ四〇米ノ鐵筋コンクリート造リ発電所本屋、石炭用エスタカ
ード、石炭粉碎場、淨水場、遞昇變電所等テ純國産品ノ第一
號タービン及ボイラーハ唯今据附中テアル。ボイラーノ石炭消
費量ハ毎時二五噸ヲアルト言フ。又マイヘ川ヨリ當発電所迄ノ
四杆ノ長サノ導水管モ敷設中テアル。之カ完成スル時ハマイヘ
川ノ水流ハ新放水路ヲ流レルコトニナル。発電所建設ノ目的ハ
浦鹽斯德市ノ諸企業トアルチヨム炭鑛ニ電力ヲ供給スルニテツ
テ発電所浦鹽間四八杆ノ送電線及變電所等ノ設備ハ間モナク竣
工スルコトニナツテキル。今迄ハ発電所ノ所在地ニハ停車場カ
無カツタカ今回トバズ停車場カ設ケラレ定期ニ列車カ發着スル
様ニナツタ。
コムソモリスク市ノ発電所ハ同市ノダリプロムストロイカ自家
用トシテ建設シタ出力六千キロワットノ火力発電所ノコトテ所

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館

謂工業發電所ヲ都市發電所テハナイ。同發電所ハ元來前記工場  
 以外ニハアムール造船所ニミ電力ヲ供給スルヲ目的トシ、設  
 備ノ點カラ言ツテモ急激ニ發展シツツアルコムソモリスク全市  
 ニ電力ヲ供給スルタケノ能力ハ到底出セナイノテ市トシテモ非  
 常ニ困却シテキル。將來ノ概計畫ヲ考慮ニ入レルトスレハ發電  
 所カ現在架設中ノ六千ボルトノ送電線ハ三萬八千ヴオルトノ高  
 壓ニスヘキテア~~ル~~、建設中ノ冶金工場ノ餘熱利用法ヲモ講スヘ  
 キテアツタノデア~~ル~~。同發電所ノ所有者テアルダリプロムスト  
 ロイ工場ハ工場タケノ立場カラ發電所ヲ經營シテキル爲上、記ノ  
 如キ不都合ヲ生スルノデア~~ル~~カラ宣シタ之ヲグラヴエネルゴニ  
 移管スヘキテアルトノ説~~カ~~アル。

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

調査部

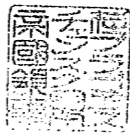
歌臣局

機密公第二二二二號

昭和十一年十月二十三日

在武市

領事代理 下村 未 郎



外務大臣 有 田 八 郎 殿

當地ニ於ケル電力節約ニ關スル決定實施  
狀況ニ關スル件

本月十三日附發布セラレタル電力節約ニ關スル人民委員會議決定公  
從來トモ實施セラレタル電力統制ヲ更ニ強化シ以テ電力消費量ヲ合  
理化シ其ノ濫費ヲ防止セントスルモノニシテ其ノ骨子ハ本年第四期  
ニ於ケル(一)工場(二)營造物、商店及街路照明(三)發電所自體ノ電力消費  
量ヲ前年同期或ハ本年第一期ノ電力消費量ニ比シ合理的ニ一〇%一

在ブラゴウエスチェンスク日本領事館

昭和十一年十月廿六日接授

Handwritten signature and notes in Japanese.

五%ト六%節約セントスルニ在リ然ルニ當地ニ於ケル本決定ノ實施  
狀況ハ當地發電所ノ營業不良ト相俟チ工場ノ急速ナル合理化節約不  
可能ナル爲無理解ナル當地當局ハ合理化節約ト謂フ本決定ノ主旨ヲ  
没却シ徒ニ一般民家ヘノ送電ヲ犧牲ニ供シツツアリ即チ市「ソヴイ  
エト」ハ當地發電所ト協議ノ上一般民家ヘノ送電ハ之ヲ午前二時迄  
中止シ或ハ電燈料帶納者ヘハ全然送電ヲ中止スル等消極的手段ニ依  
リ一時ヲ糊塗シ居ル有様ナリ  
右報告ス

本信寫送附先 在蘇代理大使

在 滿 大 使

在 哈 府 總 領 事

在 浦 潮 總 領 事

在 黑 河 副 領 事

在ブラゴウエスチェンスク日本領事館

分類 E4.5.0.59 )

調査第三課

外務大臣 佐藤尚武殿

「カザフスタン」共和国内ニ於ケル発電事業報告ノ件

最近「カザフスタン」ニ於ケル各種産業ノ目醒マシキ發展ニ伴ヒ自然同地方發電事業ニ付テモ當局ハ銳意之カ達成ニ努力シ居レルカ「カザフスタン」スカヤ、ブラウダ「紙ノ所報ニ依レハ本年同共和国ニ於ケル発電所建設及擴張費トシテ四百萬留計上セラレ居レリ目下建設中ノ「ジヤルケント」發電所及「カラガンダ」發電所ハ何レモ本年内ニ竣工スヘク其發電能力ハ前者九十一キロワット「後者

在ソヴォンビルスク  
領事 小柳雪生



歐亞局  
普通第二科  
昭和十二年三月十三日

昭和十二年三月廿九日接受

外國電氣部

外國ニ於ケル電氣料金ニ關スル件

本件ニ關シ九月四日附通總普通令第一四七九號ヲ以テ御訓令ノ趣敬承「モスコ」州國營電氣部ノ電氣使用規程（Правила Пользования электроэнергией от сети Мосэнерго）一部茲許送附ス

外務大臣 有田 八郎 殿

在「ソヴェエト」聯邦  
臨時代理大使 酒 勾 秀



本普通第二科  
昭和十一年十一月十九日

有附屬  
昭和十二年三月九日 接受





百「キロワット」ナリ其他各地方及都市發電所ノ擴張及建直シ作業豫定セラレ居ルカ就中「ウスチ、カメノゴルスク」發電所「セミバラチンスク」東方ハ其電能力ハ一八五「キロワット」クスタナイ發電所「チエリヤービンスク」東南方「ハ一二〇」キロワット「グーリエフ」發電所ハ三〇〇「キロワット」迄ニ夫々達セシムル豫定ナリ同時ニ「チムケント」及「ウラル」發電所ノ能力モ著シク強化セラルヘシ

尙目下最モ注意スヘキハ「イルツイシユ」河ヲ利用スル「ウスチ、カメノゴルスク」水力發電所ノ建設準備ニシテ之カ一般調査ノ爲「レーニン」グラード「水力電氣計畫部」ヨリハ既ニ調査隊ヲ派遣シ當發電所設計ニハ「ベトナム」水力發電所建設ニ成功經驗アル優秀技術者ヲ参加セシメ居レリト云フ本年中ニ右設計ヲ完了シ定年ヨリ建設ニ着取スル豫定ナリ  
計畫ニ依レハ右水力發電所ハ「ソ」聯邦ニ於ケル最モ大規模ノモノ「ニシテ其總發電力ハ約二十五萬「キロワット」ニシテ年發電力ハ十億「キロワット」時以上ニ對達スヘシ

同發電所ハ「カザフスタン」ニ於ケル幾多重要企業ニ對スル電力供給ノ「<sup>根據地</sup>」トシテ尙「アルタイ」ニ於ケル有色金屬工業發展ノ上ニ裨益スル處大ナリ云々  
右報告ス

本信爲送付先

在「ソ」大使

	發信用	執務用
主信	4	2
附	甲	2
	乙	4
	丙	4
	丁	
備考		

要寫  
懸案  
二部

公文書	昭利拾貳年四月 八日發送簿	文書課發送	昭利拾貳年四月 八日發送簿	文書課長
	主 任 第一課	主 任 第一課	主 任 第一課	主 任 第一課
歐亞局長	陸軍省後宮 軍務局長	陸軍省後宮 軍務局長	陸軍省後宮 軍務局長	陸軍省後宮 軍務局長
參謀本部 第二部長	參謀本部 第二部長	參謀本部 第二部長	參謀本部 第二部長	參謀本部 第二部長
海軍省 豐田 軍務局長	海軍省 豐田 軍務局長	海軍省 豐田 軍務局長	海軍省 豐田 軍務局長	海軍省 豐田 軍務局長
軍令部 野村 第三部長	軍令部 野村 第三部長	軍令部 野村 第三部長	軍令部 野村 第三部長	軍令部 野村 第三部長
歐亞局長	歐亞局長	歐亞局長	歐亞局長	歐亞局長
昭利拾貳年四月八日 附 附屬	昭利拾貳年四月八日 附 附屬	昭利拾貳年四月八日 附 附屬	昭利拾貳年四月八日 附 附屬	昭利拾貳年四月八日 附 附屬
正校 (原稿)	正校 (原稿)	正校 (原稿)	正校 (原稿)	正校 (原稿)
淨書	淨書	淨書	淨書	淨書
昭利拾貳年四月二日 起草	昭利拾貳年四月二日 起草	昭利拾貳年四月二日 起草	昭利拾貳年四月二日 起草	昭利拾貳年四月二日 起草
別紙	別紙	別紙	別紙	別紙

本件ニ關シ今般在「カザクスタン」共和國ノ發電事業ニ關スル件

付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸海軍省 參謀本部 軍令部

(昭和十二年 三月 十三日 附在「カザクスタン」館來(往)機第 二八 號寫單附屬書寫)



歐亞局

普通本第七〇號

昭和十二年六月九日

昭和十二年六月廿四日接受

在ハバロフスク

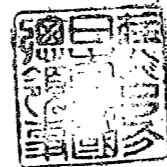
總領事 島田

滋

外務大臣 廣田 弘毅 殿

極東地方ニ於ケル發電事業ノ現在及將來ニ關スル件

在ハバロフスク日本總領事館



極東地方ノ發電事業ハ他ノ産業部門ニ比シ甚タ遅レテ居ルノ單ニ最初カラ立チ遅レテ居ルノミナラス第一次五ヶ年計畫時代ニハ斯業ニ對スル熱意ヲ缺キ大ナル進歩ヲ見ス又第二次五ヶ年計畫テハ飛躍的ニ老ナ建設計畫ヲ立案シタカ其後計畫ニ多大ノ修正變更ヲ來シ或ハ事業ノ中止トナリタルモノモアリ結局出來上リハ當初ノ案ニ比シ著ク縮小セラレ龍頭蛇尾ニ移ラントスル形勢デアアル

此ノ發電事業ノ不振ハ單ニ地方住民ノ日常生活ヲ不便ナラシムルニ止マラス躍進途上ニアル各種新興産業ノ遂行ヲ甚ク阻害シ且又國防上ニモ大ナル脅威ヲ與フル結果トナルノテ來ルヘキ第三次五ヶ年計畫テハ異常ナル熱意ヲ以テ之カ根本的擴張充實ニ邁進セララルル筈デアアル

在ハバロフスク日本總領事館

當地方發電事業ノ爲ニハ因ヨリ水力ノ利用ヲ有利トスル)然シナカラ現在ハ未タ水利利用ノ研究調査十分ナラス既往ノ發電所ハ悉ク火力發電ニ依ツテ居ル)從テ將來水力利用ノ餘地ハ十二分ニアリ利用シ得ル水力資源ハ全聯邦ノ一五%ヲ占メテ居ルトイフ

近年ニ於ケル當地方ノ發電事業ノ成績ハ大体次ノ如クテアル

年	出力(キロワット)	發電量(「キロワット」時)
一九三〇年	一三、九〇〇	三五、二〇〇、〇〇〇
一九三二年	一八、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇
一九三三年	二八、四〇〇	七一、七〇〇、〇〇〇
一九三四年	五四、〇〇〇	?
一九三五年	一一〇、〇〇〇	八二、〇〇〇、〇〇〇

在ハバロフスク日本總領事館

一九三六年 一三九、〇〇〇 豫定九九、三〇〇、〇〇〇

第二次五ヶ年計畫最初ノ案ニ依レハ一九三三年カラ三七年ニ至ル間在來ノ舊發電所ノ外ニ地方各地ニ新設又ハ大改装ヲ行フヘキ發電所ノ數ハ大小二十二箇所テ其ノ出力合計ハ四十八萬一千「キロワット」ニ達スルモノテアツタ)然シナカラ其ノ遂行実績ハ甚タ芳シカラス現在ニ於ケル地方ノ出力合計ハ漸ク十七萬「キロワット」弱ニ到リ得タニ過キナイ

第三次五ヶ年計畫ハ目下作製中ニ屬シ其ノ内容ハ弱知スヘクモナイカ最近當地方ノ電力事業専門家「エー、ミナーケル」ノ筆ニナル「極東地方ノ電業建設ニ於ケル重要問題」ナル論文ハ斯業ノ將來性ニ關シ若干ノ指針ヲ與フルモノテアルカラ以下其ノ要旨ヲ引用シツツ

在ハバロフスク日本總領事館

近キ將來ニ於ケル發電事業ニ就テ觀察ヲ加ヘタイト思フ  
先ツ主要都市及重要企業中心地ニ於ケル電力問題ヲ檢討スルト  
略々次ノ如シ  
ハハバロフスク市

地方ノ政治軍治事及工業ノ中心地トシテ最近日醒シキ發展ヲ遂ケ  
市及隣接地ノ電力需要ハ約二萬「キロワット」ニ上ルカ現在ノ發  
電所ノ出力ハ僅ニ六千「キロワット」ニ過キス著キ不足ヲ告ケテ  
居ル

然ルニ第三次五年計講末期ニハ電力需要ハ優ニ五萬「キロワット」  
「ヲ豫想セラレアリ之カ爲目下出力五萬「キロワット」又ノ火力  
發電所ノ建設ガ計講中テアル右發電所ノ爲ニハ同市近傍「ムーヒ

在ハバロフスク日本總領事館

ンカ」附近ノ「トルフ」(泥炭)ノ利用ヲ有利トスルカ其ノ開發  
ハ未定ノ問題ニ屬スルノテ恐ラク黒龍州「ライチム」炭坑ノ產  
炭ヲ利用スルコトニナルドラウ  
尙ホ同市ニハ多數ノ重要ナル官衛及企業等カ集中シテ居ルノテ萬  
一ノ場合ニ處スル爲豫備ノ電力供給手段ヲ講スルノ必要カアル  
之カ爲ニハ「ホール」河ヲ利用スル水力發電所ノ建設ヲ利有利ト  
スル

ニ浦潮斯德市及「アルチヨーム」炭坑  
本年「アルチヨーム」新發電所ノ操業開始ニ依リ右兩市ニ對スル  
電力供給問題ハ著ク緩和セラレタ但シ前項同様豫備發電所ノ建  
設ヲ必要トスルノテアル

在ハバロフスク日本總領事館



「アルチヨーム」発電所ハ完成ノ曉ニハ出力十萬「キロワット」ヲ有スル地方第一ノ施設トナルカ目下ハ第一「タービン」発電機ノ据付ヲ見タ許リテ明年度カラ更ニ遂次第二乃至第四ノ「タービン」発電機ノ据付ヲ行ハネハナラヌ「タービン」発電機一箇ノ出力ハ二萬五千「キロワット」テアル

第三次五年計畫<sup>ホ</sup>柔期ニハ浦潮市ノ電力需要ハ六萬乃至六萬五千「キロワット」ニ達スルテアラウカ是ハ「アルチヨーム」発電所ノ完成ニ依テ解決出來ル筈テアル

蘇城炭坑附近

現在ノ発電所ノ出力ハ三千「キロワット」テアルカ第三次五年計畫<sup>ホ</sup>ニハ需要ハ一萬八千「キロワット」ニ上ル豫定テアル

在ハバロフスク日本總領事館

之カ爲現在ノ発電所ヲ擴張スルト共ニ「アルチヨーム」発電所ヨリ送電スル方法ヲ併用スルヲ要スル「アルチヨーム」ヨリノ送電ハ一九三八乃至三九年ノ間ニ竣工シ工費ハ五百萬留位テ足リル豫定テアル

四 ソウエイトスカヤ、ガワニ

現在新興ノ都市トシテ日醒シキ發展ヲナシツツアルカラ近ク電力ノ不足ヲ生スルニ至ラン一九四〇年ニハ漁業關係企業及港灣關係ノミニテモ二千五百「キロワット」ヲ要スルコトトナル見込テアル

之カ爲現在建設進行中ノ発電所ヲ更ニ擴張スル下共ニ同市ヨリ約四十軒ヲ隔ツル「ツツト」河ヲ利用シ水力発電所ヲ建設スルヲ要

在ハバロフスク日本總領事館



スル)同水力発電所ハ出力一萬乃至一萬五千「キロワット」建設費ハ一「キロワット」當リ三乃至四千留以下ノ見積リテアル

五「シハリ」綜合金屬企業及「シナチ」錫鑛山

右兩所ノ電力需要ハ第三次五年計畫<sup>末</sup>ニハ一萬二千「キロワット」ニ増加スル見込テアル現ニ「シハリ」テハ既ニ電力ノ不足ヲ告ケ現在ノ火力発電所擴張ノ急ニ迫マラレテ居ルノテアルカ更ニ之ヲ補フ爲ニハ「シハリ」ヨリ四十乃至五十軒ノ地ニ「テチュヘ」河ヲ利用シ一萬「キロワット」ノ水力発電所ノ建設カ可能トサレテ居ル

六コムソモリスク市

同市ハ極東ノ工業中心地トシテ目下鋭意建設中テアルカ第三次

在ハバロフスク日本總領事館

五年計畫<sup>末</sup>期ニハ其ノ需要ハ十萬「キロワット」ニ達スルモノト豫想セラ<sup>末</sup>ル)現在ハ同市黒龍江造船工場ニ附屬スル能力六千「キロワット」ノ発電所ヲ以テ同市及附近各工場等ニ供給シテ居ルノテアルカ遂次不足勝トナル)ノテ現在発電所ヲ擴張スルト共ニ一九四〇年ニハ能力五萬「キロワット」ノ火力発電所ヲ建設セネハナラヌコトトナルテアラウ)其爲<sup>ニ</sup>燃料ハ「ライチーハ」産炭ヲ豫想セラレ<sup>ル</sup>

七「ウオロシーロフ」市及「スバスク」市

「ウオロシーロフ」市ノ爲ニハ現在同市製油脂綜合及製糖工場<sup>兩</sup>附屬発電所「スバスク」市ノ爲ニハ同市「セメント」工場ノ発電所カ供給ヲ擔當シテ居ルカ是タケテハ不足ヲ告ケルノテ新ナル發電

在ハバロフスク日本總領事館

所ノ建設カ計畫中テアル「ウオロシローフ」市ノ爲ニハ「アル  
 チヨーム」カラ送電スル場合距離七十八軒、投資四百乃至四百五  
 十萬留トナリ新發電所ヲ建設スルヨリモ遙ニ經濟ニナル筈テアル  
 ハ「ビロビツヂヤン」市  
 州ノ政治、軍事及地方ノ輕工業中心地トシテ發展シツアル本  
 ニハ現在出力七千五百「キロワット」ノ發電所カ建設進行中テ本  
 年來迄ニ竣工ヲ豫定セラレテ居ルカ是レ亦早晚擴張ノ必要ニ迫ラ  
 レルテアラウ  
 其他  
 其他現在電力不足シ發電所擴張乃至新設ノ急ニ迫マラレテ居ル  
 都市ハ次ノ如クテアル

在ハバロフスク日本總領事館

武市、 尼港、 ベトロバウロフスク、 亞港、 ルフロオ、  
 ゼーヤ、 イマン、 ビギン、  
 又一般ニ地方ノ公共發電所ハ其ノ數少ク規模亦小テ出力合計ハ僅  
 ニ九千「キロワット」ニ過キス。區「ライオン」中心地ノ大多數  
 ハ現在尙ホ電燈ノ施設ヲ有セサル有様テアル從テ第三次五年計畫  
 間ニ所在燃料ヲ利用スル火力發電所ヲ多數設置シ電力供給ノ普及  
 ヲ計ラネハナラス  
 尙ホ又炭坑地テハ採炭作業ヲ機械化シ能率ヲ向上スル爲ニ豊富ナ  
 ル電力ヲ供給スル必要カアル。例ヘハ「ライチーハ」ノ如キハ現  
 在僅ニ五百「キロワット」ノ小發電所ヲ有スルニ過キス速ニ之ヲ  
 一萬八千「キロワット」ニ増加スル必要カアル

在ハバロフスク日本總領事館





以上記述セル所ヲ要約スルニ第三次五年計畫期間ニ増加セシムヘキ  
發電力ハ合計三十五萬乃至四十萬「キロワット」ニ達スル)而シテ  
前述ノ如ク第二次五年計畫間ニ豫定セル發電力増加四十八萬一千  
キロワット「カ」實行ニ當リテハ僅ニ十五萬「キロワット」内外)  
即チ遂行率三八%弱ノ不成績ニ終ツタノテアルカラ前述第三次計畫  
ノ實行性ニ關シテモ多大ノ疑問ナキラ得ナイ  
諸テ從來ニ比シ第三次五年計畫ニ於ケル發電事業ニ關スル新ナル傾  
向トモ辨スヘキモノハ  
一 水力發電ヲ重用スル傾向アルコト  
一 軍事的見地ヨリ重要地點ニ對シ豫備發電施設ノ準備ヲ考慮スル  
一 至レルコト

在ハバロフスク日本總領事館

ノ二點テアル)而シテ右老大計畫ノ實現ニ關シ縱令之カ第二次五年  
計畫ノ如ク四〇%内外ノ遂行率ニ終ルトシテモ地方ノ國防上及産業  
上ニ及ホス利益頗ル大ナルモノアルハ否定<sup>ハ</sup>得ナイ所デア  
寫送付先  
在ソ聯邦大使  
在滿洲總領事  
在ハバロフスク日本總領事館

發信用		執務用	
主信	2	2	4
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考	E4.5.0.58		

文書課長	文書課發 昭和拾貳年七月廿貳日發送済	淨書	正校(原稿) 不破(淨書)
主 任 第一課長	歐一 普通密合第三二八一號	昭 和 拾 貳 年 七 月 廿 壹 日 日 附 附 屬	昭 和 十 二 年 七 月 廿 日 起 草
受 信 人	參謀本部 渡弟二部長 軍司令部 野村第三部長	名 人 信 發	東 郷 改 更 局 長
件 名	極東地方ニ於クル發電事業	名 件 錄 記	多 七 聖 父 事 堂 之 件
本件ニ關シ今般在ハバハラス島田總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス			
本信送付先 參謀本部 軍司令部			
(昭和十二年 六月 九日 附在 總領事館來(往)機第七。號寫並附屬書寫)			
公 信 案	外 務 省		

不白之冤  
發電ニ  
關シ

作

別紙

查詢  
12.7.24  
課三

21 14